

# 目 次

I 宇宙をめざして……………	1	3 木島隕石……………	45
1 ロケット開発事始め……………	1	4 南極隕石……………	48
2 宇宙開発のパイオニア……………	1	VI これからの宇宙開発……………	53
II 世界の舞台で活躍する		1 私たちはなぜ宇宙を	
日本の宇宙科学… (的川泰宣) 4	4	めざすのでしょうか……………	53
1 日本のロケット開発のあゆみ……………	4	2 人工衛星……………	54
2 日本の宇宙科学……………	10	3 宇宙ステーション「フリーダム」…	55
III 実用衛星の時代……………	15	4 Hope ……………	56
1 宇宙開発事業団……………	15	5 スペース プレーン……………	56
2 ロケット開発……………	15	6 プラネットB……………	57
3 人工衛星の開発……………	17	7 ルナーA……………	58
IV 地球はだいじょうぶか!? Part 1 ……	20	果てしなき	
1 リモートセンシングの役割……………	20	「夢」をもとめて… (小島雅樹) ……	59
2 大気球で調べる……………	20	月・火星の開発… (斎藤隆雄) ……	63
3 ロケットで調べる……………	24	清水建設の宇宙開発	
4 人工衛星で調べる……………	24	—宇宙ホテル構想・月面基地構想— (岡崎美鈴) ……	66
V 地球はだいじょうぶか!? Part 2 ……	31	展示資料目録……………	69
1 地球を襲う小惑星や彗星……………	31	NASA提供スペースシャトル宇宙グッズ	70
私の彗星搜索と		写真パネル提供者リスト……………	71
スイフト・タートル彗星… (木内鶴彦) ……	37	引用・参考文献……………	72
2 隕石……………	44	掲載写真提供者リスト……………	73

# 開催にあたって

私たち人類は常に高く困難な山に昇り、海の向こうには何があるのだろうと未知の海を渡っては新しい土地を発見してきました。そして、地球を平面的に知り尽くすといよいよ大空への挑戦が始まります。大昔から人類は空を見上げてきました。しかし、肉眼で見たり望遠鏡で見たりすることはできても、大地からは離れることができませんでした。たとえ飛行機が発明されても結局地球の外へは出られなかったのです。

当然のことですが、地球を飛び出して宇宙へ行きたいという憧れが人類の胸の中に広がって、弾けそうになってきます。科学技術の進歩と共にその夢、憧れが現実のものになってきました。それも、私たちが予想するよりもはるかに急速にです。1957年、ソ連は世界で初めての人工衛星「スプートニク1号」を打ち上げ、世界中をあっという間に驚かせました。また、1969年にはアメリカのアポロ11号によって人類が初めて月面に降り立ち、大きな夢を現実のものにしてくれました。

日本でも1970年に初めての人工衛星「おおすみ」の打ち上げに成功し、宇宙時代の幕が開きました。さらに、昨年は日本人宇宙飛行士も誕生し、私たちにとって宇宙がいよいよ身近なものになってきました。

私たちはなぜ宇宙を開発するのでしょうか。なぜ、宇宙へ行きたいのでしょうか。宇宙はどんな所でしょう。人工衛星はどんな役割を持っているのでしょうか。

今回の展示では、そんな素朴な疑問を念頭に宇宙開発の持つ重要な責務を考えてみたいと思います。

長野市立博物館長